

2016年10月11日

肉用牛肥育牧場の経営継承について

株式会社ノベルズ（十勝管内上士幌町、延與雄一郎代表取締役社長）を中核とする畜産・食品加工のノベルズグループは、兵庫県の畜産事業者が運営してきた肉用牛の肥育牧場（十勝管内音更町東3線4番地）の経営を継承しました。株式会社ノベルズ直営の「ノベルズ音更牧場」として同牧場を運営します。

ノベルズグループでは従来、食用に肥育される黒毛和種の素牛（もとうし）*を生産しており、音更牧場において、新たに黒毛和種の素牛を試験的に肥育し、付加価値のより高い素牛を生産することを目的に、調査研究に取り組みます。

*素牛：生まれた子牛を生後9カ月前後まで育てた肥育前の子牛。国内畜産業界の肉牛生産は、牛の生育ステージなどによる分業が一般的であり、母牛に子牛を生ませる「繁殖」、子牛を素牛まで育てる「哺育・育成」、素牛を食用に出荷できるよう肥らせる「肥育」などに細分化している。

■経営継承の経緯と現状

今回、ノベルズグループが継承した肥育牧場は、約6ヘクタールの用地に牛舎10棟、堆肥舎2棟などの施設を備え、肉用牛約1,000頭を飼養できる。

兵庫県の畜産事業者が2000年から主に交雑種の肉用牛を生産してきたが、将来にわたっても業績の維持・拡大を図るとの経営的な判断から、2016年4月ごろ、ノベルズグループに事業を譲渡する旨を打診。これを受けて、ノベルズグループでは、土地・建物・設備を譲り受けるとともに、全スタッフ5人を正社員に迎えた。

2016年9月までに土地・建物・設備などの譲渡に係る一連の手続きは完了している。従来、同牧場で飼養してきた肥育牛については、肥育期間を終えた牛から順次出荷しており、現在、入れ替わりで黒毛和種の素牛を搬入するなど新運営体制への移行を進めている。

■黒毛和種の素牛生産と調査研究

ノベルズグループの主力事業は、①「肉牛事業」（肉用牛の素牛および交雑種肥育牛*の生産）、②「酪農事業」（生乳・子牛の生産）、③「食品事業」（加工食品の製造販売）であるが、このうち①の「肉牛事業」においては、黒毛和種の素牛を生産し、全国各地で黒毛和牛の「肥育」を手がける事業者に出荷している。ノベルズグループの黒毛和牛出荷頭数は、2015年実績で3,445頭で、単一の事業者としては全国最大級の規模。

*交雑種肥育牛：ノベルズグループでは、1回だけ出産を経験した交雑種の雌牛を32カ月以上の長期肥育した自社ブランドの「十勝ハーブ牛」を生産しており、「赤身の高級肉」という独自価値を提供している。

今後、「ノベルズ音更牧場」において、黒毛和種の素牛の試験肥育が本格化すると、「繁殖」から「哺育・育成」「肥育」まで、グループ内で黒毛和種の一貫した試験生産体制が整う。一般に、食用牛の肉質や可食部分の重量といった評価は、血統などの先天的要因と生育歴などの後天的要因によって左右され、ノベルズグループでは、試験的な一貫生産体制において、黒毛和種の食用牛の評価について、血統、生育歴の詳細なデータと併せて分析する調査研究を通じて従来にも増して付加価値の高い素牛の生産ノウハウの確立を目指す。こうした一貫生産体制による調査研究の取り組みは、国内畜産業界でも珍しい。

本プレスリリースに関するお問い合わせは、ノベルズグループ広報担当

株式会社ノベルズ ブランディング推進部 村上（080-1890-6079）まで

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町上士幌東3線259番地

TEL 01564-2-3360 FAX 01564-2-4672 URL <http://nobels.co.jp/>

